

野村 万作

大倉源次郎

宝生 和英

能 狂言 末広かり
石橋 連獅子



酒井家庄内入部400年記念 宝生流能楽公演

亀井 広忠

野村 萬斎

金春惣右衛門

シンポジウム
連吟 鶴亀
舞囃子 高砂

令和4年

6月14日(火)

祝賀能奉納・祝賀能

開演 奉納能 15:00 祝賀能 18:30

(荘内神社)

6月15日(水)

能楽体験・鑑賞能

開演 第一部 10:00 第二部 13:00

※開場時間は、いずれも開演の45分前です。
※荘内神社に於ける祝賀能奉納につきましては関係者のみのご入場です。
※演目、チケット情報等は次ページ・裏面をご覧ください。

荘銀タクト鶴岡 大ホール

主催/公益財団法人 庄内能楽館 (酒井家庄内入部400年記念宝生流能楽公演実行委員会) 共催/荘銀タクト鶴岡・鶴岡市教育委員会・荘内神社
後援/鶴岡市・酒田市・三川町・庄内町・遊佐町・鶴岡商工会議所・出羽商工会・荘内銀行・庄交コーポレーション・荘内日報社・山形新聞・山形放送
出羽三山神社・致道博物館・鶴岡観光協会・荘内酒井歴史文化振興会・黒川能保存会・松ヶ岡開墾場・荘内松柏会・鶴岡市芸術文化協会・酒田市芸術文化協会

酒井家庄内入部400年記念宝生流能楽公演実行委員会



酒井家庄内入部400年記念 宝生流能楽公演

祝賀能公演 6月14日(火) 午後6時30分開演/荘銀タクト鶴岡大ホール

チケット料金 (全席指定・税込)

〈一般〉SS席 12,000円 / S席 10,000円
A席 8,000円 / B席 5,000円
C席 3,000円 (一部舞台が見えにくい席あり)
〈学生〉A席 4,000円 / B席 2,500円
C席 1,500円 (一部舞台が見えにくい席あり)

※学生席は25歳以下が対象(要学生証)。
※当日券は各500円増し。
※未就学児入場不可。託児あり(先着順/チケット購入確定後、公演2週間前まで要申込み/有料)。
※車椅子席は荘銀タクト鶴岡でのみ販売。

チケット販売

★鶴岡市民先行エントリー(1人4枚まで購入可)
受付方法/荘銀タクト鶴岡ホームページ
受付期間/3月1日(火)午前10時~11日(金)午後7時
※座席指定不可。
※申込み多数の場合は抽せん。当落結果はメールでお知らせ。
※チケット購入後のキャンセル・変更不可。
※インターネット環境のない方は要問合せ。
チケット引換え/3月19日(土)~27日(日)に同館へ(クレジットカード不可)

★一般販売(1人4枚まで購入可)
販売開始/4月2日(土)午前10時から先着順
販売方法/
①荘銀タクト鶴岡ホームページ(座席指定不可)
※予約日から2週間以内に同館へ(クレジットカード不可)
※希望者には代金引換で郵送(別途手数料)
②荘銀タクト鶴岡窓口(座席指定可)
③庄内能楽館(座席指定可。クレジットカード不可)
④チケットぴあ(座席指定可。クレジットカード不可)

能楽体験・鑑賞能 6月15日(水) 第一部 午前10時開演 第二部 午後1時開演
/荘銀タクト鶴岡大ホールほか

能楽体験・鑑賞能 第一部・第二部とも教育事業の一環で鶴岡市内小学生約300人が参加・鑑賞しますが、一般参加者を募集します。

① 第一部 お囃子体験ワークショップ
定員/20人程度
内容/笛・小鼓・大鼓・太鼓のお道具体験
講師/大倉源次郎、亀井広忠、金春惣右衛門 ほか
② 第二部 狂言・能体験&鑑賞能
定員/狂言・能体験…20人程度
鑑賞能…700人程度
内容/狂言・能の所作についての体験・講座、演目鑑賞
講師・出演/野村萬斎、辰巳満次郎 ほか
演目/狂言…附子、能…土蜘蛛
※中面の番組表をご参照ください。

①② 一般参加者の申込みとチケット販売
申込み・チケット販売/
4月2日(土)午後1時~9日(土)午後7時までに
荘銀タクト鶴岡ホームページへ
お囃子体験 料金/1,000円(①のみに参加の場合)
鑑賞能 料金/一般5,000円
学生2,500円(25歳以下、要学生証)
※中学生以下無料(要申込み)。
①② 共通
※座席指定不可。
※申込み多数の場合は抽せん。当落結果はメールでお知らせします。
※インターネット環境のない方は要問合せ。

※新型コロナウイルス感染症の影響で、公演の中止や延期、ワークショップの内容等が変更される場合がありますので、ご了承下さい。

連吟参加者募集

祝賀能で、地元出演者による連吟(謡曲を2人以上で謡う)「鶴亀」に参加する方を募集します。初心者も大歓迎です。
対象/小学生以上20人 公演日時/6月14日(火)午後6時30分
稽古日/4月~6月の平日夕方に月1回程度開催
講師/宝生流能楽師
場所・申込み/庄内能楽館 ☎0234-33-4568
庄内能楽館 鶴岡教室 ☎0235-23-3136



tact-tsuruoka.jp



noh.or.jp

主催/公益財団法人 庄内能楽館
〒998-0074 山形県酒田市浜松町1-5
☎0234-33-4568 (平日 午前10時~午後5時)
チケットに関する問い合わせ/荘銀タクト鶴岡 ☎0235-24-5188

令和4年 **6月14日** 火
 荘内神社 14時15分開場 / 15時開演

酒井家庄内入部四百年記念

祝賀能奉納

二二挨拶

石原 純一宮司

《能》

翁 宝生 和英

面箱 野村 裕基

大鼓 亀井 広忠

翁

三番叟 野村 萬斎

脇鼓 大倉伶士郎

笛 藤田 貴寛

千歳 辰巳大二郎

小鼓 大倉源次郎

脇鼓 清水 和音

後見 武田 孝史

地謡 當山 淳司

水上 優

小倉健太郎

藪 克徳

大坪喜英雄

高橋 憲正

辰巳満次郎

和久莊太郎

小倉伸二郎

狂言後見 深田 博治

中村 修一



令和4年 **6月14日** 火
 荘銀タクト鶴岡 17時45分開場 / 18時30分開演

酒井家庄内入部四百年記念

祝賀能

シンポジウム

石原 純一
 酒井 忠久
 宝生 和英
 大倉源次郎
 野村 萬斎

連吟 鶴亀 地元出演者

《舞囃子》

高砂

大坪喜英雄

大鼓 原岡 一之 太鼓 金春惣右衛門
 小鼓 清水 和音 笛 成田 寛人

高砂

木谷 哲也

地謡 藪 克徳
 高橋 憲正
 水上 優
 佐野 玄宜

《狂言》

末広かり

果報者 野村 裕基

万作 野村 萬斎

《能》

後見 中村 修一

童子 小倉健太郎

子獅子 宝生 和英

親獅子 武田 孝史

寂昭 森 常好

大鼓 亀井 広忠

太鼓 金春惣右衛門
 小鼓 大倉源次郎 笛 藤田 貴寛

後見 大坪喜英雄

水上 優

地謡 辰巳 和磨
 田崎 甫 辰巳満次郎
 川瀬 隆士 小倉伸二郎
 當山 淳司 高橋 憲正

佐野 玄宜

藪 克徳

辰巳大二郎

木谷 哲也

連獅子



令和4年 **6月15日** 水
 荘銀タクト鶴岡 第一部 10時開演 / 第二部 13時開演

能楽体験・鑑賞能

第一部

お囃子体験

藤田 貴寛 成田 寛人
 大倉源次郎 清水 和音 大倉伶士郎
 亀井 広忠 原岡 一之

第二部

狂言・能体験

野村 萬斎
 辰巳満次郎

附子

主 野村 萬斎
 太郎冠者 中村 修一
 次郎冠者 内藤 連
 後見 野村 裕基

《能》

トモ 川瀬 隆士

小蝶 辰巳大二郎

頼光 當山 淳司

蜘蛛ノ精 辰巳満次郎

土蜘蛛

独武者 森 常好
 從者 館田 善博
 梅村 昌功

間 從者 野村 裕基

後見 宝生 和英

小倉健太郎

藪 克徳

辰巳 和磨

地謡 木谷 哲也

田崎 甫 小倉伸二郎

佐野 玄宜 武田 孝史

高橋 憲正 水上 優

大鼓 原岡 一之 太鼓 金春惣右衛門
 小鼓 大倉伶士郎 笛 藤田 貴寛



解説

能 翁 (おきな)

「翁」は能にして能にあらざといわれ、一種は神事として極めて厳肅且つ儀式性の濃い祝禱の舞として古くから重んじられてきました。千歳・翁・三番叟の三人の役者が、順次歌舞を勤めますが、三者の間に戯曲的な構成はなく天下泰平・国土安穩・五穀豊穡を祈願してめでたい舞を舞い、延年を祝福します。

狂言 末広かり (すえひろがり)

果報者が来客に末広かり(扇)を贈ろうと、太郎冠者に命じて都へ買いに行かせる。ところが末広かりが何のことも知らない太郎冠者。声を掛けてきた男の巧みな言葉に、古傘を末広かりと信じ込んでしまう。大喜びで古傘を買い求めた太郎冠者は早速屋敷に持ち帰ると、果報者に見せるのだが…。

能 石橋 (しやつきょう)

大江定基は出家して寂照法師と号し、唐に渡って仏寺や霊地を巡礼した後、清涼山の石橋のほとりにやって来ます。そこへ一人の童子が現れ、法師が渡ろうとするとそれを止めます。そして、向かいには文殊菩薩の浄土であるから、ここで待てばやがて菩薩如来が現れるであろうと言って立ち去ります。法師が待っていると、菩薩の使者である獅子が石橋の上に出現し、牡丹の花に戯れつつ雄壮な獅子舞を舞い、千秋万歳を祝います。「連獅子」の小書がつくと赤頭の獅子の他に、白頭の親獅子が登場し、親子の獅子で舞い狂います。

狂言 附子 (ぶす)

主人が太郎冠者と次郎冠者に留守番を言いつけ、桶の中に附子という猛毒が入っているで決して近づかないように、と言いつけ、残し出かける。附子が気になって仕方がない二人は、こわごわ様子を探ると、中身の正体は実は砂糖！二人は夢中になって全部食べてしまう。言い訳の方法を考えた二人は…。

能 土蜘蛛 (つちぐも)

源頼光は、近頃原因不明の熱病に罹って、病床に過ごし、侍女の小蝶が典薬の頭の調じた高貴薬をすすめても、いまは死を待つのみだと嘆きます。夜も更けすぎるころ、姿は蜘蛛に似た僧形の者が頼光の枕許に近づくと頼光は名刀膝丸を抜き放って二、三太刀浴びせかけると、化生の者は糸を繰りかけて退散します。異変を聞きつけた家来の独武者(ひとりむしや)は、夥しく流れている血の跡をたどって、大和の葛城山中の岩間の陰にある土蜘蛛の古塚をつきとめ、見事に土蜘蛛の精霊を退散し、凱歌をあげて都へ引き上げます。